

【草花の部屋】

フリージア (アヤメ科フリージア属 *Freesia refracta*)

和名: フリージア **別名**: 菖蒲水仙(アヤメスイセン)、浅黄水仙(アサギスイセン)、
香雪蘭(コウセツラン)

英名: Freesia

キジカクシ目 多年草(球根植物) **原産地**: 南アフリカ

花言葉: 優雅、天真爛漫、親愛の情、感謝、友情、期待



花色: 白、黄色、紅、桃、赤紫、橙 他

← ↓ 写真-1, 2 フリージア

撮影日: 2024年4月12日

撮影場所: 大和郡山市郊外にて

撮影者: M さん



← 写真-3 フリージアの蕾

撮影日: 2024年4月12日

撮影場所: 大和郡山市郊外にて

撮影者: M さん



← 写真-4 フリージアの花

撮影日：2024年4月6日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

フリージア属の植物は約16種が知られており、全てが南アフリカ地域の固有種で、流通しているのはその中の幾つかの種を元に作出された園芸品種だそうです。

日本には明治20年頃に渡来しているようですが、本格的に栽培が始まったのは昭和に入ってからで、現在では種子島や沖永良部島を中心として、球根の生産が行われているようです。

花は穂状花序で、花序の片側に付きます。花は漏斗状で、直立する花茎の上部から上向きにつく6弁花で、花筒部は途中から急に膨らみます。花被片(かひへん)は、外花被片(がいかひへん)3個と内花被片(ないかひへん)3個の計6個で構成され、内花被片がわずかに大きくなっています。雄蕊は3個、非対称的に片側だけに付きます。また雌蕊は1個、花柱は糸状に3分枝し、柱頭は深く2裂、もしくはそれ以上に裂けます。

葉は先の尖った剣状、または長楕円形で、数枚が根生し、小型種から切り花用の高性種まであります。休眠期は夏でラッキョウによく似た球茎になります。白、黄色は切り花に多く用いられますが、他の色は、病気に弱く切り花生産が難しいため、生花市場ではあまり流通していないようです。

フリージアは球根で夏越しをして、次の春に花を咲かせます。フリージア栽培で気をつけたいのがアブラムシだそうです。葉の裏や茎、新芽など、さまざまな場所に付着していることがあり、そのまま放置すると枯れる原因となるので要注意です。

アブラムシは風通しの悪い場所を好むので、植えつけの際、蒸れにくい環境を整えることが大切です。また、同じ土へ植え続けていると連作障害を起こすことがあるようで、鉢植えであれば、毎年新しい土への植え替えや、地植えの場合も、2年～3年に1回は植え替えを行うと良いそうです。

< ちょっと一言 >

*花被(かひ)

雄蕊と雌蕊の外側にある葉的な要素で、通常内外2列になっており、外側の花被を外花被(がいかひ)、内側の花被を内花被(ないかひ)と呼ばれます。普通、外花被は「萼」、内花被は「花冠」と呼ばれますが、フリージアのように不明瞭なものは外花被、内花被と呼びます。